



主催: CYBERDYNE 株式会社

後援: 三重県 鈴鹿市

共催: 鈴鹿医療科学大学社会連携研究センター

鈴鹿ロボケアセンター株式会社

ロボットスーツHAL 第22回地区別HAL勉強会 in 鈴鹿

講演会

同時開催: 第3回 MieLip 鈴鹿ロボット研究会

日時: 11月29日(土) 14:30~17:00

場所: 鈴鹿医療科学大学 千代崎キャンパス 3513教室

【プログラム】

14:30~14:35

開会の辞

学校法人鈴鹿医療科学大学 理事長 高木 純一

〈講演〉

座長 鈴鹿医療科学大学

教授 畠中 泰彦

14:35~14:50

『ロボットスーツ HAL と機能改善治療への展開』

CYBERDYNE 株式会社 代表取締役 山海 嘉之

14:50~15:20

『ニューロリハビリテーションとしての HAL の脳卒中
急性期への応用との HAL 医療連携』

福岡大学病院 脳神経外科教授 井上 亨

15:20~15:50

『ロボットスーツ HAL の医師主導治験から見えるもの』

新潟病院 副院長 中島 孝

15:50~16:20

ロボットスーツ HAL 症例発表 3件予定

16:20~16:35

『鈴鹿医療科学大学におけるロボットスーツ HAL の研究』

鈴鹿医療科学大学 理学療法士 山口 和輝

16:35~16:55

パネルディスカッション

座長 鈴鹿医療科学大学

教授 畠中 泰彦

16:55~17:00

閉会の辞

CYBERDYNE 株式会社

営業部長兼

鈴鹿ロボケアセンター株式会社

代表取締役 安永 好宏

第6回三重緩和医療研究会

日時:平成26年11月30日(日)13:30～16:30(13:00より受付)

場所:アスト津 4階「アストホール」

津市羽所町700 TEL:059-222-4122

<プログラム>

【第一部】 13:30～14:15 一般演題

座長 桑名東医療センター 外科部長 町支 秀樹

亀山市立医療センター がん性疼痛看護認定看護師 加地 ゆき

演題1 『当院におけるがん性疼痛の突出痛に対するフェンタニル速放性製剤の使用経験』

地方独立行政法人三重県立総合医療センター 緩和ケアチーム 渡部 秀樹

演題2 『緩和医療における心理検査導入の検討』

桑名西医療センター 緩和ケアチーム 増田 亨

演題3 『当院緩和ケア病棟における在宅移行の現状』

藤田保健衛生大学七栗サナトリウム 看護部 橋本 勝利

【第二部】 14:30～15:15 一般演題

座長 三重大学 医学部看護学科 教授 成田 有吾

松阪中央総合病院 がん性疼痛看護認定看護師 池田 久仁子

演題4 『終末期患者の欲求からみたトータルペイン』

桑名東医療センター 出口 友香

演題5 『筋萎縮性側索硬化症患者へのスピリチュアルケアの実践』

ベタニア内科・神経内科クリニック 院長 渡辺 佳夫

演題6 『緩和ケアでの意思のつながり 難病患者のQOLを追って』

いせ在宅医療クリニック 遠藤 太久郎

【第三部】 15:30～16:30 特別講演

司会 藤田保健衛生大学医学部 外科・緩和医療学講座 教授 東口 高志

『治らない病を持つ患者のQOL評価と向上とは何か？』

～緩和ケアにおけるQOLの誤解を解くために～』

独立行政法人国立病院機構 新潟病院 副院長、神経内科

中島 孝 先生

問い合わせ先:第6回 当番幹事 南勢地域緩和ケアネットワーク

伊勢赤十字病院 TEL:0596-28-2171 担当:緩和ケア内科 辻村

共催 三重緩和医療研究会(北勢緩和ケアネットワーク、三重大勢緩和ケア研究会、南勢地域緩和ケアネットワーク)、協和発酵キリン株式会社

後援 三重県医師会、三重県看護協会、三重県薬剤師会、三重県医療ソーシャルワーカー(予定)協会、財団法人三重県健康管理事業センター、三重県

※会場内は飲食禁止となっております。ご注意ください。

第3回日本脳神経HAL研究会

テーマ：日本におけるHAL研究 -開発者と使用者の連携-

謹啓

時下、先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
 ロボットスーツHALは、日本全国の医療機関への導入が次第に増加し、脳卒中後遺症を含む多くの神経難病の患者さんの機能改善にその有用性が実証されています。今回は基調講演として代表的な施設にその研究成果を発表してもらい、一般演題ではHAL導入施設に貴重な使用経験を示してもらいます。現在HALを使用されている施設の方々だけでなく、今後HAL導入を考えておられる施設の医師、看護師、PT、OT、STその他HALに関わる多くの方々の参加をお待ちしております。

敬具

開催日：平成26年12月27日（土曜日）

13:00～17:55

会場：福大メディカルホール（福大病院）
 （地下鉄七隈線福大前駅下車徒歩1分）

募集人数：200名

参加費：無料

受付開始：12:30（軽食を用意します）



【プログラム】

開会の挨拶

13:00 ~ 13:10 筑波大学大学院サイバニクス研究センター長 教授 山海嘉之

基調講演（質疑応答含め20分） 座長 京都大学脳神経外科 准教授 高木康志

13:10 ~ 14:30

福大病院におけるHAL研究

福岡大学脳神経外科 教授 井上 亨

琉大病院におけるHAL研究

琉球大学脳神経外科 教授 石内勝吾

京大病院におけるHAL研究

京都大学脳神経外科准教授 高木康志

神経難病とHAL研究

（独）国立病院機構 新潟病院 副院長 中島 孝

- 休憩 10分 -

特別講演

座長 筑波大学脳神経外科 教授 松村 明

14:40 ~ 15:30 (50分)

「ロボットスーツHALの将来 -日本から世界へ-」

筑波大学大学院サイバニクス研究センター長 教授 山海嘉之

- 休憩 10分 -

一般演題 (発表7分質疑3分) 座長 琉球大学脳神経外科 教授 石内勝吾
15:40 ~ 17:10

1. 単関節HALの整形外科領域への応用
福大病院 PT 後藤恭輔
2. 単関節HALの上肢麻痺への応用
福大病院 OT 齋田和哉
3. 当院におけるロボットスーツHAL (Hybrid Assistive Limb) のリハビリテーションへの導入から運用経過と実績
JA長野厚生連 三才山病院 副院長 泉 従道
4. 急性期から回復期におけるHALの効果を追求
(医)林病院 金子直樹
5. 長崎HAL研究会の紹介及び当院におけるHAL臨床研究
(社)春回会 長崎北病院 西本加奈
6. 神経疾患におけるHALの有効性と課題
(独)国立病院機構 徳島病院 島村麻木子
7. 急性期病院におけるHALの使用経験
(公)大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 公文範幸
8. ロボットスーツHALを用いた回復期リハビリテーション～現状と今後の課題～
(医)博仁会 福岡リハビリテーション病院 脳神経外科 入江暢幸
9. 当院におけるHAL臨床研究
(医)健康会 霧島記念病院 坂元健一

- 休憩 10分 -

HAL福祉用装着実演および体験実習
17:20 ~ 17:50
CYBERDYNE (株) 仲田 智

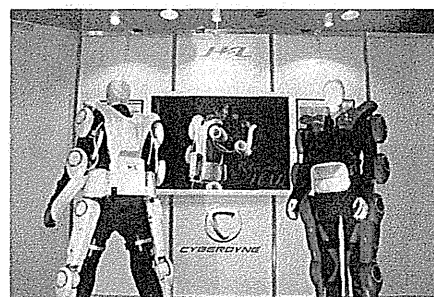
閉会の挨拶
17:50 ~ 17:55
福岡大学脳神経外科 教授 井上 亨

代表世話人

筑波大学大学院サイバニクス研究センター長
教授 山海嘉之
京都大学医学部脳神経外科 教授 宮本 享
福岡大学医学部脳神経外科 教授 井上 亨(幹事)

世話人

琉球大学脳神経外科 教授 石内勝吾
筑波大学脳神経外科 教授 松村 明
独立行政法人国立病院機構新潟病院 副院長 中島 孝
医療法人健康会霧島記念病院 院長 坂元健一
福岡リハビリテーション病院脳神経外科 部長 入江暢幸
(順不同)



事務局連絡先: 安永好宏, 若松浩二, 志岐佳紀
〒305-0818 茨城県つくば市学園南2丁目2番地1
CYBERDYNE株式会社 TEL: 029-855-3189, FAX: 029-855-3181

神経疾患懇話会 ～ロボットスーツHALとリハビリテーション(案)～

日時：平成27年1月27日(火)

18:00～19:30

会場：長岡中央総合病院 2F講堂

長岡市川崎町2041 Tel 0258-35-3700

挨拶

竹内 茂和 先生

長岡中央総合病院 脳神経外科 副院長

座長

大野 司 先生

長岡中央総合病院 神経内科 部長

特別講演

ロボットスーツHALの医療応用

-神経・筋疾患からパーキンソン病まで-

演者

中島 孝 先生


独立行政法人 国立病院機構 新潟病院 副院長

当日はご参加頂いた確認の為、ご施設名、ご芳名の記載をお願い申し上げます。尚、ご記入頂きました個人情報は、本講演会のご出席者の確認にのみ使用致します。個人情報は、主催関係社を除く第三者に開示・提供することはありません。

個人情報は、弊社の個人情報保護方針に基づき、安全かつ適切に管理致します。何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

<問い合わせ先・管理者> 大塚製薬長岡出張所 〒940-0066 長岡市東坂之上2-1-1 Tel.0258-36-2287

主催：大塚製薬株式会社

 Otsuka 大塚製薬株式会社

HTLV-1 関連疾患研究領域 研究班合同発表会

平成26年度
厚生労働科学研究費

2015年 **2月7日** (土) 9:30-16:10

東京大学医科学研究所 1号館講堂 東京都港区白金台4-6-1

9:30-9:35 【開会の挨拶】 渡邊 俊樹 東京大学大学院 新領域創成科学研究科

Session I 9:35-10:50

- | | |
|-------|---|
| 中島 孝 | 国立病院機構新潟病院
希少性難治性疾患—神経・筋障害疾患の進行抑制治療効果を得るための新たな医療機器、生体電位等で随意コントロールされた下肢装着型補助ロボット(HAL-HN01)に関する医師主導治験の実施研究 |
| 末廣 陽子 | 国立病院機構九州がんセンター
成人T細胞白血病の治療を目指した病因ウイルス特異抗原を標的とする新規複合的ワクチン療法：抗CCR4抗体を併用した樹状細胞療法 第I/II相試験 |
| 福田 隆浩 | 国立がん研究センター 中央病院
成人T細胞白血病に対する標準治療としての同種造血幹細胞移植法の確立およびゲノム解析に基づく治療法の最適化に関する研究 |
| 瀬戸 加大 | 久留米大学 医学部
ATLの分子病態に基づく治療層別化のためのマーカー開発と分子標的の同定、および革新的マウス急性型ATL実験モデルを用いた臨床応用への展開 |
| 池田 裕明 | 三重大学 大学院医学系研究科
同種移植後再発の成人T細胞白血病リンパ腫に対する次世代型レトロウイルスベクターによるT細胞レセプター遺伝子導入ドナーリンパ球輸注療法 |

【休憩…10分】

Session II 11:00-12:15

- | | |
|--------|--|
| 神奈木 真理 | 東京医科歯科大学 大学院医学総合研究科
HTLV-1感染疾患機序における自然免疫の役割解明と疾患リスク予知への応用 |
| 塚崎 邦弘 | 国立がん研究センター 東病院
臨床試験、発症ハイリスクコホート、ゲノム解析を統合したアプローチによるATL標準治療法の開発 |
| 下田 和哉 | 宮崎大学 医学部
全例登録を基盤とした臨床情報と遺伝子情報の融合によるATLL予後予測モデル、発症前診断の開発と、ATLLクローン進化機序の解明 |
| 金倉 謙 | 大阪大学 大学院医学系研究科
成人T細胞性白血病/リンパ腫(ATLL)に対するNY-ESO-1+AS15ASCIのモガムリズマ併用での安全性と有効性探索のための医師主導治験 (第I/II相) |
| 石塚 賢治 | 福岡大病院
成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)に対する新規治療を開発する医師主導治験 |

【昼食…45分】

Session III 13:00-14:15

- | | |
|-------|---|
| 出雲 周二 | 鹿児島大学 大学院医学総合研究科
HAM及びHTLV-1関連希少難治性炎症性疾患の実態調査に基づく診療指針作成と診療基盤の構築をめざした政策研究 |
| 山野 嘉久 | 聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター
HAMの革新的な治療法となる抗CCR4抗体療法の実用化に向けた開発 |
| 山野 嘉久 | 聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター
HAMに対する革新的な医薬品の開発促進に関する研究 |
| 岡山 昭彦 | 宮崎大学 医学部
HTLV-1陽性難治性疾患の診療の質を高めるためのエビデンス構築 |
| 松田 文彦 | 京都大学 ゲノム医学センター
集約的オミックス解析による難病の原因究明と疾患別遺伝子診断ネットワークの構築 |

【休憩…10分】

Session IV 14:25-15:55

- | | |
|--------|---|
| 板橋 家頭夫 | 昭和大学 医学部
HTLV-1母子感染予防に関する研究：HTLV-1抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究 |
| 上野 孝治 | 関西医科大学 医学部
HTLV-1感染モデルを用いた抗HTLV-1薬の探索および作用機序の解析 |
| 水上 拓郎 | 国立感染症研究所
抗HTLV-1ヒト免疫グロブリンによるHTLV-1の革新的感染モデルの開発とその有効性の検討 |
| 浜口 功 | 国立感染症研究所
HTLV-1疫学研究及び検査法の標準化に関する研究 |
| 長谷川 秀樹 | 国立感染症研究所
HTLV-1感染症予防ワクチンの開発に関する研究 |
| 内丸 薫 | 東京大学 医科学研究所附属病院
HTLV-1キャリアとATL患者の実態把握、リスク評価、相談支援体制整備とATL/HTLV-1感染症克服研究事業の適正な運用に資する研究 |

15:55-16:10 【総合討論…15分】

16:15-17:00 内丸班 「HTLV-1キャリアとATL患者の実態把握、リスク評価、相談支援体制整備とATL/HTLV-1感染症克服研究事業の適正な運用に資する研究」
【HTLV-1関連疾患研究事業の評価グループ会議】

【問い合わせ先】 渡邊 俊樹

東京大学大学院新領域創成科学研究科 渡邊研究室内 〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1
Phone : 03-5449-5298 FAX : 03-5449-5418 http://htlv.umin.jp/

HTLV
ATL
HAM
ぶどう膜炎

入場無料
来聴歓迎

患者主体のQOL評価法「SEIQoL-DW」を学び、活かす実習セミナー
(The Schedule for the evaluating of the individual Quality of Life-direct weighting: SEIQoL-DW)

患者の主観的評価に基づく医療 QOL 評価の新しい実践

医療の目的は患者のQOL(Quality of Life:生活の質)の向上です。QOLの測定法は数々ありますが、客観的な視点で一元化する方法を、緩和ケアや難病ケア領域など治癒を目標とできない領域に適用すると、時として「死」よりも低い評価値がでて、ケアの視点を失うだけでなく、医療の配分の視点で切り捨てられる危険をはらんでいます。患者の主観的QOL評価法としての「SEIQoL」は、アイルランドで開発されましたが、代表的な患者の報告するアウトカム(PRO: Patient reported outcome)とされ、臨床研究に多く使われています。人は状況の変化に応じて生活の中で大切に考える事柄やその優先順位を変化させ、評価を変えています。それをとらえることで、真の緩和ケアの実践を可能にします。(参考文献:中島孝、医療におけるQOLと緩和についての誤解を解くために、医薬ジャーナル、47:1167-1174, 2011)この「SEIQoL」を理解し、ipodを用いた最新システムで体験するセミナーを開催します。今回の会は、医療、介護のスタッフのみならず、患者さん・ご家族の参加も有意義になるものと思います。

日 時 平成27年2月7日(土) 13:00 ~ 17:00
場 所 帝京平成大学 中野キャンパス 講義室
東京都中野区中野 4-21-2
講 師 中島 孝(国立病院機構新潟病院副院長)
オガナイザ- 井手口 直子(帝京平成大学薬学部)
中山 優季(東京都医学総合研究所難病ケア看護研究室)
対 象 難病ケア、緩和ケアに関心がある医療職・介護職・患者・家族・関係者・ボランティア
定 員 先着50名
参加費 無料

プログラム

- 現代における喪失のケアと緩和ケア、難病ケア
- QOLとは何か: ケアを改善するためにQOLの誤解を解きどのように理解するとよいか?
- 実践演習: SEIQoLにおける面接の基本とSEIQoLにおけるCueの抽出の説明
ロールプレイ法によるSEIQoLのCue抽出(ステップ1)
ロールプレイ法によるCueのレベルの決定(ステップ2)
SEIQoLにおけるCueのWeightの推定(ステップ3)
SEIQoLのデータ入力と解析・評価

◆ お申し込み・お問い合わせ ◆

医学研中山 優季まで、**申込期限: 平成27年2月2日(月)**

裏面の申込用紙にご記入のうえFAX/Emailにてお申し込みください。

nakayama-yk@igakuken.or.jp

(FAX) 03-6834-2291(医学研難病ケア看護研究室)

主催: 「厚生労働省難治性疾患等実用化研究事業、希少性難治性疾患-神経・筋難病疾患の進行抑制治療効果を得るための新たな医療機器、生体電位等で随意コントロールされた下肢装着型補助ロボット(HAL-HN01)に関する医師主導治験の実施研究班」「難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)新規薬剤・機器の研究開発を必要とする難治性神経・筋疾患患者におけるナラティブに基づく難治性疾患データベースと臨床評価法に関する研究」

平成26年度神経難病医療研修会のご案内



日本医師会生涯教育講座2単位

カリキュラムコード：9. 医療情報 10. チーム医療 13. 地域医療 80. 在宅医療

群馬県では医療従事者等を対象とした神経難病医療研修会を開催いたしますので、ぜひ御参加ください。この研修会は、日本医師会生涯教育講座の申請をしています。

日時 平成27年2月27日（金）18時30分～20時30分（受付18：00～）

会場 群馬県庁内2階 ビジターセンター

座長 群馬大学大学院医学系研究科脳神経内科学 教授 池田 佳生 先生

講演 「ALS など神経難病ケアアプローチのポイントとQOL評価」

独立行政法人国立病院機構新潟病院 副院長 中島 孝 先生

定員 120名（参加いただけない場合のみ御連絡いたします）

<講演内容>

ALS等の神経難病ケアのポイントなど、診療や療養支援に生かせるお話を伺います。発症直後のケアの重要性や、心理サポートの方法、症状コントロール、コミュニケーションサポート、進行性の病気に対するQOL評価の考え方や、最近の研究で話題のロボットスーツHAL技術などについてご講義をいただきます。

他の難病ケア、高齢者ケアにも役立つ内容ですので、ぜひご参加ください。

★駐車場は、県庁県民駐車場を御利用ください。入出庫に時間がかかる場合がありますので、時間に余裕をもってお出かけください。

<お申込み・お問合せ先>

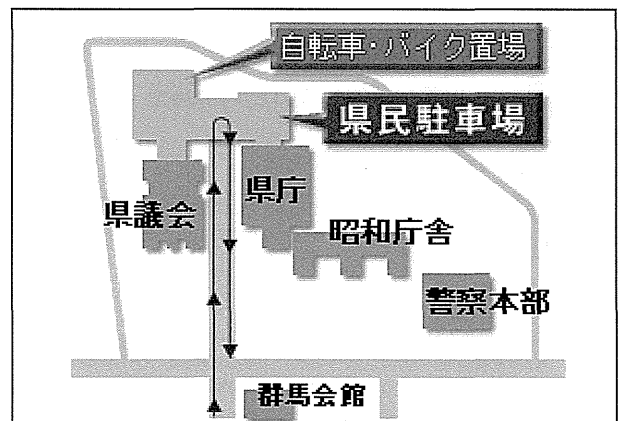
●群馬県健康福祉部保健予防課

電話 027-226-2611

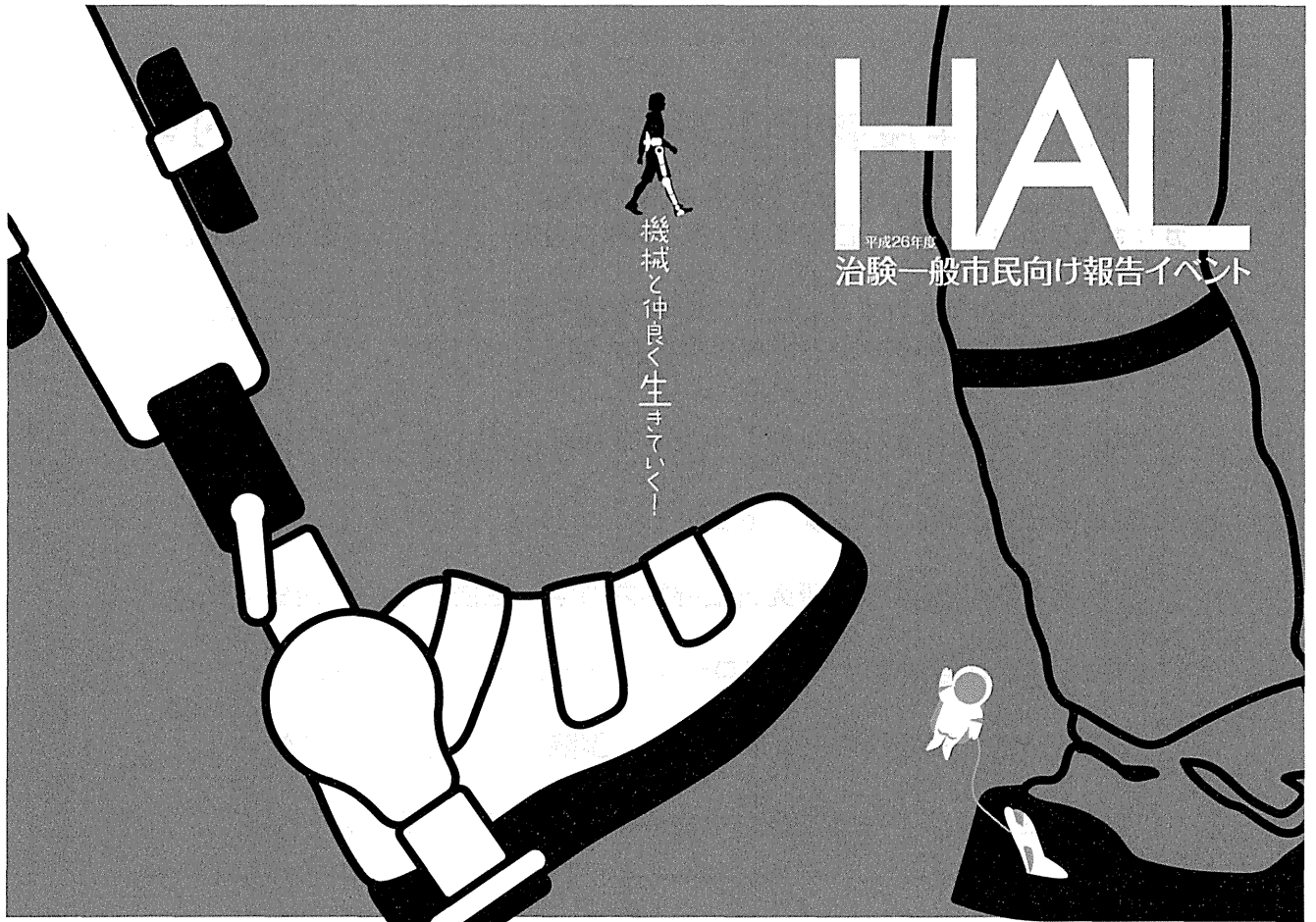
FAX 027-223-7950

●お申込みは、FAX でお願いたします。

締切り 平成27年2月17日（火）



主催 群馬県・群馬県医師会



[日時]

2015.1/31 (土)

開場受付/18:15 開始/18:30

[場所] 東京国際フォーラムD5ホール

<http://www.t-i-forum.co.jp/>

Program

第1部

厚生労働省疾病対策課 ご挨拶

[HAL治験]

日本における進捗について / 中島孝
世界の状況について / 山海嘉之

第2部

[全体討論] 20:00開始

「宇宙兄弟」に描かれる難病の未来
ファシリテーター:佐渡島庸平・川口有美子

サイバニクス
スイッチを利用した
意思伝達
デモンスト
レーションも!

山海 嘉之

Yoshiyuki Sankai

筑波大学教授 サイバニクス研究センター長
CYBERDYNE株式会社 代表取締役社長



中島 孝

Takashi Nakajima

独立行政法人 国立病院機構新潟病院 副院長
医学博士 専門:神経内科学、内科学



佐渡島 庸平

Yohei Sadoshima

漫画(ドラゴン後)、「宇宙兄弟」、「GIANTKILLING」
などを担当してきた編集者
2012年に講談社退社、作家のエージェント会社「コルク」を設立
「宇宙兄弟」にALS患者を登場させ話題に



司会 町 亜聖

Asei Machi

1995年、日本テレビにアナウンサーとして入社
「生涯現役アナウンサー」であるために2011年にフリーに転身
障害者で車椅子生活だった母との経験から
医療と介護を生涯のテーマに取材、啓発活動を続ける



共催/[希少性難治性疾患-神経-筋難病疾患の進行抑制治療効果を得るための新たな医療機器、生体電位等で随意コントロールされた下肢装着型補助ロボット(HAL-HN01)に関する医師主導治験の実施研究班](研究代表者/中島孝)
「新規薬剤-機器の研究開発を必要とする難治性神経-筋疾患患者におけるナラティブに基づく難治性疾患データベースと臨床評価法に関する研究班」(研究代表者/橋本操)
後援/CYBERDYNE社、日本ALS協会、NPO法人日本せきすい基金、NPO法人MSキャビン、自立生活センター呼ねっと、DPI日本会議、SMA(脊髄性筋萎縮症)家族の会、NPO法人ICT救助隊

お問い合わせ

NPO法人 ALS/MNDサポートセンターさくら会

〒164-0011 東京都中野区中央2丁目31番5号/けやきビル中野坂上101

さくら会研修センター



03-5937-1370



03-5937-1371

[担当/三神]



機械と仲良く生きていく！



山海 嘉之

Yoshijuki Sankai

筑波大学教授・サイバニクス研究センター長
CYBERDYNE株式会社 代表取締役社長
1987年3月筑波大学大学院(博)修了。日本学術振興会特別研究員、筑波大学機能工学系助手、講師、助教授、米国Baylor医科大学客員教授、筑波大学機能工学系教授を経て現在、筑波大学大学院システム情報工学研究科教授。CYBERDYNE(株)CEO。Cybernetics、Mechatronics、Informatics を中心として、脳・神経科学、行動科学、ロボット工学、IT技術、システム統合技術、生理学、心理学などを融合複合した人間・機械・情報系の新学術領域「サイバニクス」を開拓し、人間の機能を強化・拡張・補助する研究を推進。



中島 孝

Takashi Nakajima

1983年新潟大卒。NIHフェローを経て、91年国立療養所犀潟病院、2004年より現職。神経内科学、特に神経筋疾患、遺伝子診断、緩和ケア、Bioinformaticsなどの臨床研究に携わる。厚生労働省難治性疾患克服研究事業「特定疾患患者の生活の質(Quality of life、QOL)の向上に関する研究」の研究者として、半構造化面接を通じた患者中心のQOL評価法SEIQoLの研究・普及に尽力している。監修書籍に「ALSマニュアル決定版」(日本プランニングセンター)がある。

Guest!



佐渡島 庸平

Yohei Sadoshima

株式会社コルク 代表取締役社長
2002年に講談社に入社し、週刊モーニング編集部所属。「バガボンド」(井上雄彦)、「ドラゴン桜」(三田紀房)、「働きマン」(安野モヨコ)、「宇宙兄弟」(小山宙哉)、「モダンタイムス」(伊坂幸太郎)、「16歳の教科書」などの編集を担当する。2012年に講談社を退社し、クリエイターのエージェント会社、コルクを設立。現在、「オチビサン」「鼻下長紳士回顧録」(安野モヨコ)、「宇宙兄弟」(小山宙哉)、「テンプリズム」(首田正人)、「インバスターズ」(三田紀房)の編集に携わっている。

撮影 神戸健太郎



町 亞聖

Asei Machi

小学生の頃からアナウンサーに憧れ1995年に日本テレビにアナウンサーとして入社。その後、活躍の場を報道局に移し、報道キャスター、厚生労働省担当記者としてがん医療、医療事故、難病などの医療問題や介護問題などを取材。また北京パラリンピックでは水泳メダリストの成田真由美選手を密着取材。「生涯現役アナウンサー」であるために2011年にフリーに転身。脳障害のため車椅子の生活を送っていた母と過ごした10年の日々、そして母と父をがんで亡くした経験をまとめた著書「十年介護」を小学館文庫から出版。医療と介護を生涯のテーマに取材、啓発活動を続ける。

*公式ブログ→<http://ameblo.jp/machi-asei/>

東京国際フォーラムD5ホール

<http://www.ti-forum.co.jp/>

東京都千代田区丸の内3丁目5番1号 ☎03-5221-9000

access

●有楽町駅より徒歩1分 ●東京駅より徒歩5分(京葉線東京駅とB1F地下コンコースにて連絡)

【地下鉄】
●有楽町線：有楽町駅(B1F地下コンコースにて連絡) ●日比谷線：銀座駅より徒歩5分/日比谷駅より徒歩5分
●千代田線：二重橋前駅より徒歩5分/日比谷駅より徒歩7分
●丸の内線：銀座駅より徒歩5分 ●銀座線：銀座駅より徒歩7分/京橋駅より徒歩7分 ●三田線：日比谷駅より徒歩5分

【首都高速道路】
●霞ヶ関出口から晴海通り ●神田橋出口から日比谷通り ●宝町出口から錦州橋通り ●京橋出口から錦州橋通り

【成田空港から】
●リムジンバス：東京駅まで80～90分 ●JR成田エクスプレス：東京駅まで53分

【羽田空港から】
●モノレール浜松町駅まで23分 ●JR浜松町駅より有楽町駅まで4分

